

教員紹介



産官学連携担当副学長・教授
黒田 達也
Kuroda Tatsuya

【担当科目】
ビジネスプラン作成法

東京大学工学部卒。早稲田大学大学院商学研究科ビジネス専攻(MBA)修了。
(公財)松下政経塾(14期生)修了。
(㈱リクルート、㈱エイチ・アイ・エス、エイチ・エス証券㈱にて、財務・人事、経営企画を担当。(一社)日本経済団体連合会21世紀政策研究所主任研究員(日本政治・農業政策)。
駒沢大学・昭和女子大学・日本女子体育大学などで就活ゼミナールを開講。
(公社)日本ニュービジネス協議会連合会特別参与。大樹リサーチ&コンサルティング株式会社特別研究員。日本ベンチャー学会会員。
著書「日本政治における民主主義とリーダーシップのあり方」(共著、経団連21世紀政策研究所)。

「ベンチャー実務経験を活かした政策提言および学術研究」 —新潟から日本を、世界を変える—

一昨年の夏から本学に所属し、本年4月より1年生の必修科目である「ビジネスプラン作成法」の講義を担当とともに、産官学連携担当の副学長として活動させていただいている。また、東京大学工学系研究科の技術経営戦略学専攻(TMI)の博士課程に籍を置き、アカデミズムの最先端の研究にも携わりながら、常に新しい知識・情報をインプットするよう心がけています。本稿では、そんな活動の一端をご紹介いたします。

まず講義では、従来の形式要件を備えただけの机上のビジネスプランを超えて、ベンチャーキャピタルやエンジェル(個人投資家)から、あるいは企業のトップや役員会から、プレゼンを通して投資や予算を獲得するための“活きた”プランの作成を目指しています。学生には、グループワークを通じてプランを練り上げてもらう一方、都度授業で教授する経営学の基礎項目は、本学の他科目的ガイダンスにも相当するため、出来るだけ興味・関心を持っていただけるように心がけています。

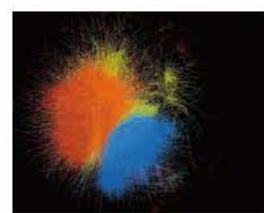
また産官学連携に関しては、池田弘総長の様々な立場での政府系会議・委員会での活動をサポートしながら、ベンチャーの新潟および日本での振興を図っています。現在関与しているものは、官民ファンド活用推進、新潟市国家戦略特区、まち・ひと・しごと創生会議など、安倍政権でも重要な位置を占めるものが多く、かなりの時間と労力を割いて取り組んでいます。

最後に、学術研究ですが、当初は実務家教員として今まで培った経験と人脈を活かして教授すれば事足りると考えていたのですが、昨年度修士論文を執筆

する過程で、学術研究の論理構成の精緻性、学術的フロンティア研究がもたらす社会変革の可能性の大きさに気づかされました。そこで、今年度からはTMIで「地域的なイノベーションが生成・発展するための、企業間・産官学ネットワークの諸条件」をテーマに研究しています。具体的には、新潟を含む一定地域の企業間の取引データを、ネットワーク理論を用いて解析し、地域の大学・研究機関がどんな役割を担い、国・県・市がどんな施策を講じれば、地域のイノベーションが促進され、経済が活性化するのかというものです。研究成果がすぐに政府や行政の具体的施策に反映でき、新潟や日本の地域経済の発展に貢献できるので、使命感を持って研究を進めたいと考えています。

現在は手始めに、過去からの世界中のベンチャーに関する有力学術論文を対象に、それらを論文の引用関係に着目してネットワーク解析を行なっています。来年夏の国際学会発表に向かって、現在もっともホットなベンチャー研究分野はどこか(“born global”をキーワードとするサブクラスタが有力)、日本発の論文の影響力はどうか、日本の今後のベンチャー研究はいかにあるべきか、などの示唆を導出できればと考えています(図は、その最大クラスタのネットワーク関係を可視化したものです)。

これらの活動を通じて、新潟が発展し、日本各地にベンチャーが創生され、その中から世界で活躍する“born global”企業が生まれることを期待しております。



“venture”をキーワードに含む論文ネットワーク図

誌上講義

Faculty interview



**准教授
熊田 憲**
Kumata Satoshi

【担当科目】
地域マネジメント
地域経済産業論
演習Ⅰ・Ⅱ

東京理科大学理学部応用物理学科卒～東北大大学院経済学研究科現代応用経済科学専攻修士～同工学研究科技術社会システム専攻修了。大学終了後、石川島播磨重工業株式会社(現㈱IHI)にて人工衛星、ロケットの開発プロジェクトに従事。退職後、大学院にてイノベーション戦略・政策の研究を行う。東北大では未来科学技術共同研究センター、産学連携推進本部、地域イノベーション研究センターにおいて、イノベーション創出の研究、調査、支援業務を行う。修士(経済学)、博士(工学)。

『イノベーションを興す複雑性のマネジメント』

近年、企業のみならず国や自治体、大学においてもイノベーションの創出が叫ばれるようになった。イノベーション創出の成否が、今後の存続を左右する分水嶺と目されているからである。しかしながら依然として、企業や地域がどのようにすればイノベーションを興せるのか、という問い合わせに対する答えは明確になっていない。その一因はイノベーションの複雑化にあるのではないだろうか。

イノベーションへの期待が拡がるにつれて、イノベーション活動には自己の価値を追求する多種多様な組織やセクターの参画が促された。このような多参加化の潮流は、イノベーション活動における企業連携、产学連携、地域連携といった連携強化へと繋がった。しかし「連携すればイノベーションは興せる」といった楽観論が流布されていくことには危惧を抱かざるを得ない。なぜなら連携に参画する様々なアクターは固有の文化や歴史的背景、考え方や判断基準を持っており、評価や成果の取り扱いなど、各々の追及する価値を巡る対立が生じるためである。このような対立の存在により、連携活動では意思決定が一本化され難い。往々にして、それぞれのアクターが自己の行動原理に基づきつつ他者とも協働を図るといった「部分的な融合」に留まってしまい、イノベーション活動には複雑な意思決定メカニズムが働くことになる。

アクターが求める「価値」の違いによりイノベーション活動が複雑化する理由は、イノベーションの価値の不確実性と多様性に起因する、戦略的意図が働くためである。イノベーションの成果には先進性、市場性、発展性など予測困難な価値評価が必要となる。これは不確実性である。さらに権利化や利益の回収などにおいて創出された価値の取り扱いが異なる。これは多様性といえる。つまり連携活動によりイノベーションを成功に導くためには、参画するアクターによって異なる戦略的意図を協調させるといった、複雑性のマネジメントが必要になるのである。

研究報告



**准教授
丸山 一芳**
Maruyama Kazuyoshi

【担当科目】
経営組織A
経営組織B
演習Ⅰ・Ⅱ

博士(知識科学)北陸先端科学技術大学院大学。
新潟市生まれ。大学卒業後、松下電器産業株式会社(現パナソニック株式会社)にて人事部門に勤務し任用や国際人事を担当。退職後、大学院にてナレッジ・マネジメント(知識経営論)や組織論の研究を開始。あわせて株式会社リクルート・ワークス研究所客員研究员を務めるなど民間企業との共同研究を積極的に行なってきた。

『新潟地域活性化研究所』

5月1日より本学内には学長を研究所長とした「新潟地域活性化研究所」が設置されています。より地域に密着した研究・教育を推進するための研究所です。地域企業の発展及び地域活性化を推進し、地域課題対応型連携研究、地域体験型デザイン教育および社会貢献活動を推進しようとするものです。研究所では客員研究員を迎える制度があり、今回本学修了生の金子秀光さん(新潟県)、渡部容子さん(新潟県)に就任いただきました。それぞれ新潟県庁において活躍され日常業務においても地域と密着した政策マターを扱っているわけですが、さらに研究所という場を利用して学術的な知見から地域の課題に考察を加えていきます。具体的には、新潟県の企業におけるダイバーシティ戦略や少子高齢化問題について小生といっしょに研究する予定です。さらに、主幹研究員として前事業創造大学院大学教授の田中延弘先生(法政大学地域研究センター客員研究員)に就任いただきました。田中先生とは、新潟の日本酒を世界に輸出するための調査・研究を開始しています。新潟市西区内野にあります塙川酒造さんにもご協力いただきながら研究を進めていく予定です。事業創造というコンセプトがより一層地域に開かれたかたちで世界を視野に入れながら実践に結びつく研究となるよう努力してまいります。修了生がMBAとして本学修了後も研究活動を継続・支援する場としても研究所を活用できますし、地域企業とのコラボレーションによる事業開発も視野に入っています。研究成果は論文やケース資料の作成、学会発表、シンポジウムの開催などのさまざまな形式によって広く公開してまいります。みなさまのご理解ご支援を宜しくお願い致します。ぜひ、今後の研究活動にご期待ください。また、研究所での研究テーマについてもご意見をお待ちしております。

在学生紹介

日本に留学しMBA取得を目指す在学生に、入学動機や将来目標をお聞きしました。

Student interview |



グエン・コン・ホアンさん
Nguyen Kong Hoang

ベトナム・ダラット大学卒
静岡・富士山日本語学校出身
(2014年4月本学入学)

Q 入学した動機について教えてください。

A 私はベトナムのダラット大学を卒業後、ダラット市において農業にかかるJICA（独立行政法人国際協力機構）が行うプロジェクトに参加していたのがきっかけで、経営や経済の分野に大変興味を持っていました。ビジネスや起業に必要とされる経営学全般に関する知識をシステム的かつ理論的に修得するため、大学院に進学したいと思うようになりました。そんな中、事業創造大学院大学の「経営管理修士（MBA）・専門職」を修得することが私の専攻したことと一致しているということが分かりました。また、自分が描く将来の起業の実現に向けてより近づくことができるよう、大学院でビジネスプラン作成法の講義などを通じて、現実のビジネスで活用できる必要な知識や技能の修得を行っていきたいと思っています。

Q 学んでいる科目について教えてください。

A 2014年4月に事業創造大学院大学に入学しました。それ以前の私は、持っているスキルは日本語だけでしたので、経済や経営に関する知識を全く持ち合わせていませんでした。そのため、事業創造大学院大学において、ビジネスプラン作成法、経営戦略、財務会計論、マーケティングといった必修科目に加えて、コーポレートファイナンス、アジア経済とビジネス戦略Aといった興味のある科目から履修しました。

Q MBA取得後の将来の目標について教えてください。

A 事業創造大学院大学を卒業した後、私は日本企業の仕組み、日本の経営文化、社風、日本人の働き方などを勉強するため、そして、自分の将来の起業に際して様々な必要なスキルをさらに身につけるために2、3年ほど日本の企業に就職したいと思っています。

その後は、ベトナムに帰国し、大学院で勉強した知識や日本で生活し身につけることができた経験を実際に有効活用し、ベトナムで起業したいと思っています。

私の将来の仕事の目標は、ベトナムで自分の柿加工製造会社を作ることであります。そして、自分の会社が様々な高品質の製品を生み出し、ベトナムの国内だけではなく、外国へ輸出したいと思っています。これから先、自分の将来計画を実現できるよう頑張りたいと思います。



ゴ・カリュウさん
吳 嘉鑑
中国・湖北民族学院大学卒
早稲田EDU日本語学校出身
(2013年4月本学入学)

Q 入学した動機について教えてください。

A 私の入学動機は非常にシンプルです。日本語学校で進学校を探しているときに、事業創造大学院大学の見学会（体験授業）に参加させていただきました。その際に、模擬講義を拝聴し、大学院の教室・図書室を拝見させていただきました。そして事業創造大学院大学の教育プログラム、例えば「単位制度」、「演習」の在り方、「事業計画書」の作成、「客員教授」による特別講義が受講できるなど、一通りの特徴を理解したうえで、私は自分にとって相性がいい大学院であると思いました。そのあと東京へ戻り、新潟のこともいろいろと調べているうちに、新潟は良いところであると実感し、事業創造大学院大学に入学したいと考えました。

Q 学んでいる科目について教えてください。

A 「経営戦略」、「財務会計論」、「マーケティング」などの必修科目はもちろん、「技術経営論」、「地域経済産業論」、「経営組織B」、「アジア経済とビジネス戦略A」、「市場調査法」、「マネジメントサイエンス」、「リスクマネジメント」、「財務諸表分析」なども学びました。特に「マーケティング」、「アジア経済とビジネス戦略A」、「経営組織B」は、学生自ら発表する機会が多く、留学生にとって知識の修得や日本語能力の向上には、とても良い講義の在り方であったと思います。さらに「財務会計論」、「財務諸表分析」の講義で、初めて見た貸借対照表、或は損益計算書は、計算に夢中になれて非常に楽しかったです。

Q 演習と事業計画書（ビジネスプラン）について教えてください。

A 私が今、考えているビジネスプランは「清潔パイプマン」です。「清潔パイプマン」とは、中国人の富裕層をターゲットとして、「お部屋掃除」と「生活習慣コンサルティング」といった、一見すると関連性の低いと思われるサービスをマッチングすることにより、新たに生まれ得る新サービスを提供しようというビジネスプランです。中国は現在、飛躍的な経済成長を遂げているにもかかわらず、国民一人ひとりの健康意識・環境意識がまだまだ低いレベルにあると感じています。私が考える本事業の目的は、中国国民の健康意識・環境意識を高めることによって、最終的に「中華民族が世界中で誇りを持った民族になる」ということを実現するためです。これからは、このサービスの内容をめぐって、具体的なメニューをさらに思案していきたいと思います。

Q MBA取得後の将来の目標について教えてください。

A 私は将来、起業したいと思っています。2年間一生懸命考えていたビジネスプランを実現し、社長になりたいです。しかし卒業後すぐではありません。MBAを取得したからといって起業できる条件が整ったとはいません。そのため、私は起業するために必要な経験・人脈・リーダーシップを就職することによって身につけようと考えています。現在日本の企業から内定をいただき、4月より入社することが決まりました。

在学生紹介

日本に留学しMBA取得を目指す在学生に、入学動機や将来目標をお聞きしました。

| Student interview |



イ・キさん

衣輝

中国・徐州建築職業技術学院卒
国際外語・観光・エアライン専門学校出身
(2013年4月本学入学)

Q 入学した動機について教えてください。

A 私は2013年の春学期に入学する前から、新潟の学校で4年間勉強していました。長い間日本で暮らして、いろいろな人と出会い、様々なことを経験してきたことで、将来は国に帰って、個人事業を展開したいという夢を持つようになりました。日本には経営系の専門職大学院がたくさんありますが、事業創造大学院大学の所在地が新潟市の中心にあり、入学後も慣れ親しんだ場所での生活が送れることから利便性があり、また、大学院名の通り、「事業創造」は将来自分がやりたいことであると思ったため、この大学院を選びました。

Q 学んでいる科目について教えてください。

A 私は中国で土木工程学部を卒業し、入学前の4年間は主に専門学校で日本語を専攻していましたので、経営学の知識は皆無に等しい状況でした。最初は不安な気持ちもありましたが、大学院の先輩にたくさん意見を聞き、基礎科目から履修し始めたことで、春学期終了後には、実際にはそう難しくはなかったと思えるようまでなりました。特に財務会計論などの会計科目などは、起業志向を持つ私にとって、すごく役に立つ科目であったと思います。

Q 演習と事業計画書（ビジネスプラン）について教えてください。

A 私は入学する前に、すでにもう自分自身のビジネスプランを持ち合わせていました。私はこれまで、独り旅を通じて中国国内の多くの都市を周ったことがあります。その時感じたことは、日本ではありふれた「飲料用自動販売機（自販機）」が、中国の多くの都市ではほとんど普及していないということでした。そういう点から、私は日本全国どこにでもある自販機が、中国という巨大市場を舞台に展開したならば、大きなビジネスチャンスがあるのではないかと思いました。事業創造大学院大学では、ゼミ（演習）を通じて先生による指導や他の演習生からの指摘や助言を受けることができるので、自分のビジネスプランの問題点が浮き彫りとなり、今後の研究方向などが少しずつ明確になっていきます。

Q MBA取得後の将来の目標について教えてください。

A 私はこの夏休みに、国へ帰って現地調査を行ってきました。おかげで事業計画書も順調に進んでいます。現在、私は2年生の後期なので、徐々に卒業へと近づいています。帰国したら、2、3年の間で、ぜひ事業計画を展開できるように頑張りたいと思います。

国際交流活動報告

本学では、教員間の共同研究、学術交流、起業家・ビジネスリーダーを目指す優秀な留学生の受け入れ等を目的に、世界各国の大学と交流協定を締結しています。

カンボジア、インド、タイ、中国、スロバキアの5大学と新たに交流協定締結

本学では、グローバルな視野を持った起業家・実業家の育成を目指して、世界各国から将来母国で起業家やビジネスリーダーとして活躍を目指す留学生を積極的に受け入れています。また世界各国の大学との交流協定を締結し、教員間の共同研究や学術交流を進めています。そして、この初夏から秋にかけて、新たにカンボジアの王立プノンペン大学、インドのティラク・マハラシュトラ大学、タイの泰日工业大学、中国の大連大学、スロバキアのパンヨーロピアン大学の5大学と交流協定が締結されました。これにより本学の海外交流協定校は、11か国25大学となりました（2014年9月現在）。

ベトナム交流協定校との「ハノイビジネスマッチング交流会」を開催

2014年8月17日、ベトナムハノイ市内においてベトナムの交流協定校と事業創造大学院大学による「ハノイビジネスマッチング交流会」が開催されました。本学からは、富山栄子地域・国際担当副学長を始め在学生4名が交流会に参加し、ベトナムにおける新規事業展開の可能性を探ることを目的にビジネスプランに関するプレゼンテーションが行われました。ベトナムの交流協定校（ハノイ貿易大学、ハノイ国家大学外国語大学、ハノイ大学）からは、本学を修了した14名に加え、ハノイ国家大学外国語大学で教員を務めるPham Nha Trang先生が参加し、在学生らとともに質疑応答が行われました。



在学生によるビジネスプレゼンテーションの様子



ハノイビジネスマッチング交流会を終えて

在学生紹介

働きながらMBA取得を目指す在学生やMBAを取得された修了生に、
演習や事業計画書における取り組み、今後の目標などについてお聞きしました。

Student interview



清田 達也さん
Seida Tatsuya
株式会社せいだ
(2014年4月本学入学)

Q 入学した動機について教えてください。

A 私が所属する株式会社せいだはいわゆる自営業で初代から数えて私で5代目になります。今では多くの人に支えられ、少しずつではありますが、規模拡大して参りました。その事業の承継をいかにスムーズに行うかが今後の弊社の課題ということもあります。必要なものを学ぶ為に入学を希望しました。また、株式会社せいだは「農業」をビジネスとして取り組んでいる企業です。今後激しく変遷していくであろう日本の農業とどう向き合っていくかという課題を是非考えたいというのも動機の一つです。

Q 学んでいる科目について教えてください。

A まだ入学して半年なので、春学期は、経営戦略や財務会計論等基礎科目を中心に、税法Aなど発展科目からも授業を選択して学びました。その中でも特に自分のためになったのが春学期に受講した「アジア経済とビジネス戦略A」でした。この科目は毎週異なるゲストスピーカーがいらっしゃって、主に自社の海外戦略について講演して下さるという内容です。県内の著名企業の方々から生の声を聞いて非常に良い刺激を受けたと感じています。秋学期からはこの科目の富山教授のゼミに参加し、海外での戦略について直接学ぶ予定です。

Q 演習や事業計画書(ビジネスプラン)について教えてください。

A まだまだ素案程度ではありますが、私は将来的には「農業」で海外進出したいと考えています。今や新潟の誇るべき「お米」や「野菜」、「果物」の農産物を海外へ輸出している企業も少なくありません。昨今の海外での和食ブームに乗ってこれから農産物の輸出はさらに加速していくと思われます。しかし肝心の生産者がどんどん減っていっては元も子もいません。離農やTPPといった今後直面する課題を乗り越える為にも私は生産者である農家さんの収入の底上げと自信を持てる場を創造したいと考えております。具体的には農業そのものをソフト化し、海外の現地で生産、流通するという戦略を考えています。弊社の事業は農家さんの成長なくして成り立ちません。農家さんと一緒に海外で戦える「農業」を築き上げていくことが今後の課題であり、弊社の将来的なビジョンであるかと思います。

Q MBA取得後の将来の目標について教えてください。

A 今新潟は国から農業特区に指定されたり、農業や食育関連の施設ができたりと今後国内外問わず注目されるのではないかと私は思っています。必ずそこにチャンスはあるはずなので、私自身グローバルの波に乗れるよう、今後も関心のある科目はできるだけ受講したいと思っています。大学院で学んでいる科目は本当に自分に直結しているものばかりなので、日々考えさせられます。考えたこと、学んだこと、得たことを全て自分の事業に活かすのが個人的な目標かと思います。

修了生紹介



中川 良介さん
Nakagawa Ryosuke
株式会社ハードオフコーポレーション
県央エリア・統括
兼 ハードオフ長岡古正寺店・店長
スーパーバイザー
(2014年3月本学修了)

Q 社会人として大学院で学びなおすに至った経緯を教えてください。

A 社内公募の制度を利用して2012年の春学期に入学させていただいたのですが、その前年に東日本大震災があり強く社会に貢献したい、世の中の役に立たねばと考え自分を鍛える意味でも大学院の門を叩くことに決めました。自社に在籍して15年以上が経ちこの業界での実務経験はあるのですが、あらためて外の世界を見て、外の考え方につれてみたいということでも動機のひとつでした。とにかく熱心に伝えてくれた大学院の皆様と、快く自分を送り出してくれた自社には感謝しています。

Q 大学院で学んだことが現在の仕事や実社会で役立っていると実感するケースはどんなときですか?

A 大勢の人の前で話したり、プレゼンの能力が上がったと思います。論理的に順序立てて話を進めることができるようにはなったほか、複雑なグラフや図表など資料の作成が上手になりました。また経営戦略、マーケティングなどの授業の影響から常に儲かる仕組みを探すこと、同じ仕事をするにしてもより付加価値の高い仕事をするといった意識が高くなりました。それからP/L、B/S、C/Fなどの財務諸表が読めるようになり、ファイナンス系もすっかり強くなりました。

Q 事業計画書(ビジネスプラン)の作成にあたって社会のニーズをどのように捉えましたか?

A 日本の将来像である少子高齢化や時代環境の変化に適合し、必要とされるもの、かつ新しい分野で斬新なビジネスモデルという点に留意して書きました。書き上げるまで修正、修正、また再調査して修正のくり返しで産みの苦しみを味わい非常に忍耐力のいる作業でしたが、本来起業して成功する裏付けをとる、あるいは出資を募るということはこういうものかと思います。しかしながら取り組んでいるうちに、不景気のいまこそ起業のチャンス、時代の変化のスピードが速い分色々なチャンスが転がっているのだと感じられるようになりました。

Q 大学院修了後に、今改めて抱く目標や展望を教えてください。

A いますぐどうこうということはないのですが、自分はまだまだ発展途上にあり、未熟者であるということがよくわかりました(笑) ただ将来的にもやはり社会の役に立ちたい、天下国家の為にというところは置いてないので、今後も自己研鑽に励みます!

演習

演習ポスターセッション・ゼミ交流会

演習委員長 丸山一芳 準教授

7月21日海の日に学内行事として「2014年度演習ポスターセッション・ゼミ交流会」を開催しました。昨年度から開催しているこの交流会は、各ゼミにおいて日頃なされている研究の成果を一枚のポスターとして発表することにより、参加者との自由な議論を通じて研究の促進と活性化を図ることやゼミ間の交流を深め、円滑な情報交換と人的ネットワークの構築を図ることが目的です。修士論文に相当するものとして事業計画書を全院生が執筆する本学では新事業テーマやコンセプト、経営戦略やマーケティング、財務計画などが常にゼミにおいて議論されています。この議論をゼミの枠組みをこえて広く全学の議論することで事業の芽をさらに伸ばそうという真剣な議論の場がこのセッションです。ポスターは最優秀ポスター賞に本谷香苗さん(ベトナム市場における消臭剤の販売計画)、優秀ポスター賞に遠藤利行さん(ハードオフコーポレーションのナレッジ・マネジメント)が参加者全員の投票によって選出されました。



最優秀ポスター賞を受賞した本谷香苗さん(左)と指導教員の富山栄子教授(右)



優秀ポスター賞を受賞した遠藤利行さん(右)と指導教員の丸山一芳准教授(左)

「税法演習」に加え「会計演習」が誕生します

本学は、税理士を目指されている方を主たる対象として、現在、「税法演習」を開設していますが、2015年度から新たに「会計演習」も開設します。

本学の演習では事業計画書の作成指導を行いますが、「税法演習」では税法に関する論文の作成指導、「会計演習」では会計に関する論文の作成指導を行います。

尚、所定の科目および「税法演習」、「会計演習」のいずれかを履修し、修士論文を作成して、本学を修了すると、「税法演習」履修の場合は、「税理士試験の税法科目2科目の免除」を、また、「会計演習」履修の場合は、「会計科目1科目の免除」を申請することが可能となります。(修了後、国税審議会に申請し、認定を受けることにより、受験が免除されます。)

「税法演習」・「会計演習」説明会のお知らせ

以下の日程で「税法演習」・「会計演習」の説明会を開催いたします。本学に入學し、「税法演習」・「会計演習」いずれかの履修を希望される方は、必ずご参加ください。(参加無料・要予約)

*都合がつかない方には個別相談も受け付けております。

開催日	時 間	担 当	説明会の概要
第1回 10/18㊁			1. 事業創造大学院大学について
第2回 11/15㊁	10:30～12:00	鈴木 広樹 准教授	2. 「税法演習」・「会計演習」について
第3回 12/13㊁			3. 税理士試験科目免除申請について
第4回 1/24㊁			

INFORMATION

特別講義

10月25日(土)、今、日本の飲食業界で大変注目を集めている居酒屋「てっ�ん」の創業者、大嶋啓介 客員教授による特別講義を開催いたします。一般の方々にも受講いただけるよう広く公開しておりますので是非この機会に皆様のご参加をお待ちしております。(参加無料・要予約)

2014年 10月25日(土)
10:30～12:00 (受付開始10:15～)

テーマ

『究極のリーダーセミナー』 ～成果を出せる本気のチーム創り～



株式会社てっ�ん
代表取締役
大嶋 啓介 客員教授

名刺交換会 12:00～12:30

体験授業

本学では、入学を希望・検討されている方を対象に、体験授業を開催いたします。体験授業終了後には、専任教員との懇談や個別相談の時間も用意いたします。将来起業を志す方、事業承継者やビジネスリーダーを目指す方を対象に広く公開しております。是非この機会にお気軽にご参加ください。(参加無料・要予約)

2014年 10月18日(土) 13:30～15:30



【地域で生み出されるイノベーション】
～その戦略を考える～

熊田 寛 准教授

[担当科目] 地域マネジメント、地域経済産業論、演習I・II

2014年 11月15日(土) 13:30～15:30



【ゲームで学ぶチーム構築プロセスの条件】
～リーダーシップと人間関係～

丸山 一芳 準教授

[担当科目] 経営組織A、経営組織B、演習I・II

2014年 12月13日(土) 13:30～15:30



【ちょっぴり企業経営してみよう】
～ビジネス・シミュレーションゲームで
お金の調達・投資・回収の企業活動を体験～

山田 俊郎 准教授

[担当科目] 財務会計論、財務諸表分析、中小企業財務論、演習I・II

■体験授業 タイムスケジュール

13:15～	受付開始
13:30～13:45	事業創造大学院大学の概要説明
13:45～14:45	体験授業
14:45～15:00	入学試験に関する概要説明
15:00～15:30	施設見学・個別相談(※希望者のみ)

入 学 試 験 2015年春学期(4月)入学

*本学と交流協定を結ぶ海外の大学出身の方については、右記の日程とは別に入学試験を実施いたします。

出願受付期間	入学試験日
10/20㊁～10/29㊁	11/8㊁
11/17㊁～11/26㊁	12/6㊁
12/15㊁～1/7㊁	1/17㊁

※詳しい大学院情報をご希望の方は、下記までお問い合わせください。大学院のパンフレット及び募集要項等を無料でご送付いたします。



事業創造大学院大学

〒950-0916 新潟市中央区米山3-1-46
TEL 025-255-1250 FAX 025-255-1251
URL <http://www.jigyo.ac.jp/>
e-mail info@jigyo.ac.jp